

## 1.14 名工大プレゼンテーション研修 「効果的なプレゼンテーション」

### (1) 研究開発の課題（概要）

プレゼンテーションがどのようなものであり、どのようにしたら上手くできるかについて学ぶ半日の研修プログラムで、一般的な発表技法に止まらず、日常生活の場などで、場の状況を判断して自己表現をする練習の機会としても位置づけた。

### (2) 研究開発の経緯

平成21年度に実施された卒業生対象 SSH 意識調査（JST）により、本校卒業生が在学時の SSH でプレゼンテーション能力が身につけていないと回答していることがわかった。この件について運営指導委員会で検討する中で、名古屋工業大学に所属される運営指導委員から、名古屋工業大学で実施しているプレゼンテーション研修のプログラムを利用してはどうかとご提案を頂いた。その後、平成22年5月に名古屋工業大学工学教育総合センター准教授の松浦千佳子先生にご指導を依頼し快諾をいただき実施となった。

本校では、1年生に夏休みの課題研究を課しているが、本年度からその一環として、10月初旬に1年生全員にクラス内でプレゼンテーションをする機会を設けることにした。本研修はそれに向けた事業の一つにもなっており、1年生の参加者は、この研修に、自身の課題研究についての簡単なプレゼンテーションを用意して参加した。

### (3) 仮説（ねらい、目標）

プレゼンテーションの特徴や技法、内容構成や資料作成のポイントに関する諸知識を学ばせる。また、実際に指導者のもとでプレゼンテーション実習をすることによって、自らのプレゼンテーションを振り返る機会とする。

### (4) 研究の方法・内容

#### ア 対象生徒

1、2年生の希望者 35名

#### イ 実施日時

9月18日（土）9:50～12:20

#### ウ 実施場所

名古屋工業大学 2439講義室

#### エ 講師

名古屋工業大学工学教育総合センター 准教授 松浦 千佳子先生

#### オ 実施内容

##### (7) 講義

- ・プレゼンの特徴
- ・プレゼンの技法  
相手を納得させる  
目的を明確に  
テーマメッセージの設定  
リハーサルは入念にする

##### (1) プレゼンテーション実習

- ・3グループに分かれ、一人ひとりが、用意してきたプレゼンを実施
- ・プレゼンに対して指導者から指導



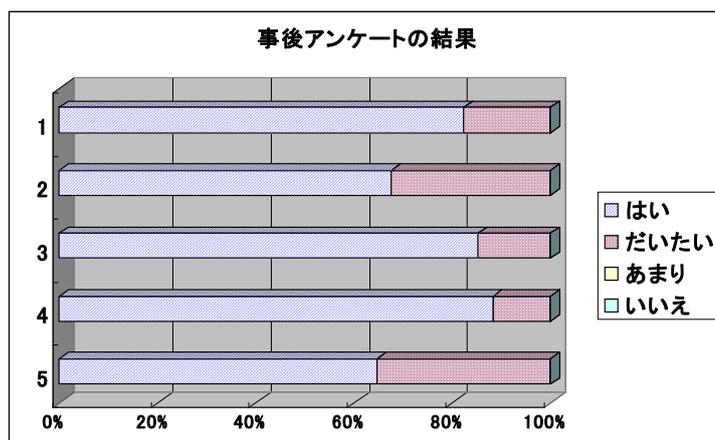
講義「効果的なプレゼンテーション」

## (5) 検証（成果と反省）

### ア 事後アンケートの結果

#### <生徒アンケートの設問>

- 1 研修内容に興味が持てましたか。
- 2 研修内容は理解できましたか。
- 3 研修に満足できましたか。
- 4 今回の研修は将来役に立つと思えましたか。
- 5 また、このような行事に参加したいと思えますか。



#### <生徒の感想から>

- ・プレゼンの仕方やどうすれば相手に伝わりやすいかということが分かった。
- ・今回の研修で自分の今までのプレゼンはとても悪いと感じた。最終的にプレゼンを考えた研究が必要と感じた。
- ・勉強になった。夏休みの課題を修正しようと思う。
- ・いろいろなプレゼン技術について学べてよかった。部活のプレゼンに役立てるととても価値のある研修だった。
- ・これから使えそうな技術なので、研修できてよかった。自分の主張が大切だと思った。
- ・自分が調べた研究ではあまり主張や意見がなかったので改善したい。自分のプレゼンの問題点や改善点分かった。
- ・実際に自分の研究内容を発表してみると、まとまっていないことが分かり、アドバイスをいただいて役立った。
- ・プレゼンテーションは、聞く側の身になって考えることも大切であると思った。
- ・自分ではなかなか気付かないプレゼンテーションのコツが分かった。
- ・他の人のプレゼンをみて、どのようなところに注意すべきかということが明確に分かった。

### イ 事後アンケートの結果から

生徒アンケート・感想からは、生徒がこの研修を役に立ったと感じ、この研修に満足している様子がよく分かる。実例を多く含めたプレゼンテーション技法の講義は分かりやすく、実際に生徒が用意してきたプレゼンテーションに直接ご指導を頂いた実習方法は効果的で生徒の要請にマッチするものであった。

### ウ 今後の事業にむけて

学校では、パソコンの使い方は習うことはあっても、状況を理解してどのように自己表現をするかについてを学ぶことはあまりない。早い時期にこのような学習をすれば、自己紹介にも自信が持てるようになり、新入生が早く学校に慣れて自分の殻から出やすくなる効果も生じると考える。本来は入学して間もないときにすべきであろう。

しかし、今回は約40人が大学を訪問して講師から直接指導を受けたが、学年全体の規模で実施することになれば、その実施方法をよく検討しなくてはならない。講義は講演会形式で行ない、実習はステージ上で代表者が指導を受ける形式ならすぐに実施できるが、それが効果的かどうかは検討を要する。また、将来的にはプレゼンテーションの基本的な考え方を高校教員が理解して、学校設定科目の中で実施するようになるのが望ましいが、プレゼンテーション実習には指導の技術や経験も必要になるので、段階的に理想に近づける努力が必要である。